



だてなりクン

# みやぎの明治村 とよま資料館だより

## 《 警察資料館編 》 第18号

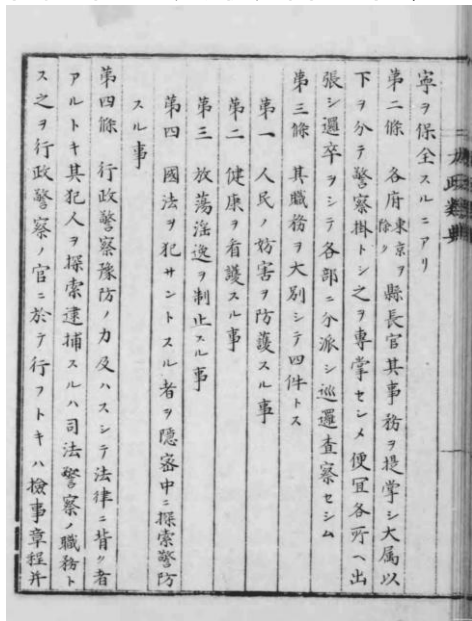
登米市歴史資料館・高倉勝子美術館  
発行/㈱とよま振興公社  
〒987-0702  
宮城県登米市登米町寺池桜小路2-1  
Tel: 0220-52-5566  
Fax: 0220-52-2630  
http://toyoma.co.jp  
発行日: 令和7年12月1日



今回の「とよま資料館だより」は「警察資料館編」となります。「警察資料館」を取り上げるのは、今回で3回目となりますので、今回は警察業務について記述します。

明治初期の警察は、現在の警察業務の他、消防業務や衛生業務も担っていました。現在の警察資料館敷地内に「火の見櫓」が建築されていることから、当時の様子が伺われます。消防業務については、明治8年(1875)4月1日に「行政警察規則」が施行され、火災時に邏卒(現在の巡査職)が出火の合図をなし、家人を救出し、雑踏整理と防犯に当たるよう心得が示されました。昭和22年(1947)12月23日に「消防組織法」が公布され、これにより、消防が警察から分離独立するとともに、全て市町村の責務に移されました。

衛生業務は、当初行政と警察が担っていましたが、明治26年(1893)に「地方官官制」が改正され、衛生業務は警察に移され、以後、昭和13年(1938)に保健所が設置されるまで所管しました。



資料1: 行政警察規則

所蔵: 国立公文書館

資料1は、明治8年に施行された「行政警察規則」で、第三条第二に「健康ヲ看護スル事」と明記されています。明治時代以降に流行した主な伝染病は、虎列刺(コレラ)、天然痘、チフス、赤痢及びスペイン風邪です。特に虎列刺は、全国では明治12年(1879)に大流行した記録が残されています。宮城県内では、同15年(1882)年に大流行しました。

資料2は、明治12年、同15年及び同19年に流行した虎列刺病の感染者数と死亡者数を表にしたものです。

単位: 人、%

年 度	全 国			宮城県		
	感染者数	死亡者数	死亡率	感染者数	死亡者数	死亡率
明治12年	162,637	105,786	65.0	91	44	48.4
明治15年	51,631	33,784	65.4	3,977	2,361	59.4
明治19年	154,373	101,495	65.7	1,344	924	68.8

資料2: 虎列刺備考(M20年出版)、虎列刺病流行紀事(M12・19年)

所蔵: 国立国会図書館

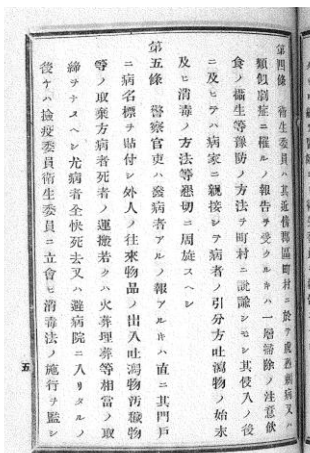
虎列刺は発症から短時間で亡くなる人もいたことから、別名コロリ(虎狼狸)とも呼ばれていました。虎列刺の死亡率が非常に高い数値だったことから、当時の人々が不安な日々を過ごしていたことが想像できます。

資料3は、宮城県が明治13年5月24日に通達した「虎列刺病予防手続別冊」です。一部内容を書き出してみます。(現代語表記します。)

第5条 警察官吏は発病者の報告があるときは直ちに其門戸に病名標を貼付し、人の往来、物品の出入り、吐瀉(としゃ)物、汚穢(おわい)物等の取り棄て方、病者死者の運搬若くは火葬埋葬等相當の取り締まりをなすべし。もっとも、病者全快、死去又は避病院に入った後は、検疫委員衛生委員に立会い、消毒法の施行を監し、病名標を取り除き、他人の交通を自由にして、その営業を許さなければならぬ。

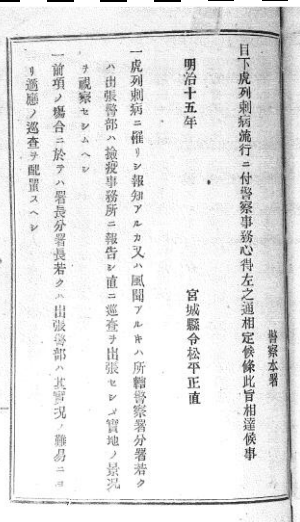
※汚穢: 汚れているもの、便所に溜まっている大小便のこと

裏面もご覧下さい



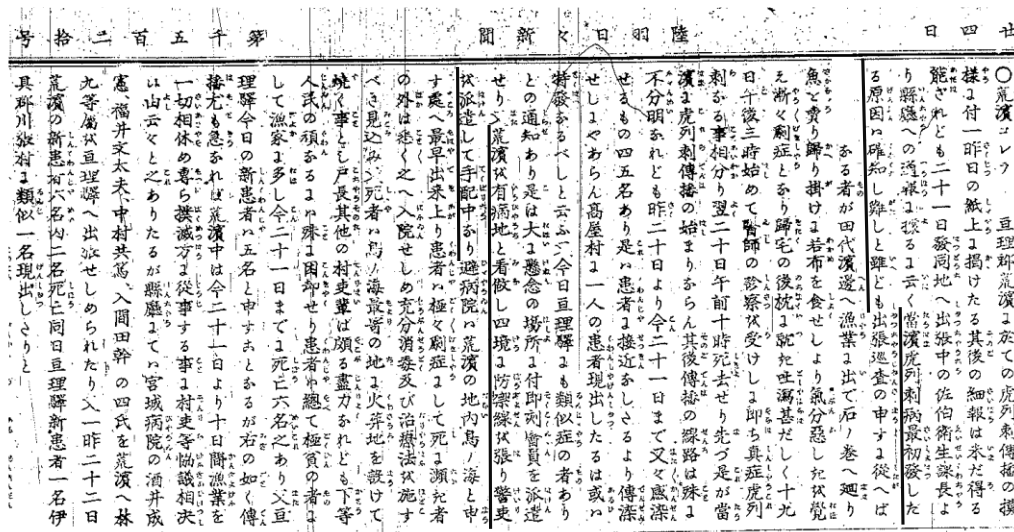
資料3: 虎列刺病予防手続別冊

所蔵: 宮城県公文書館



資料4：明治15年 本県達丙 書記課  
「目下虎列刺病流行に付警察事務心得」  
所蔵：宮城県公文書館

- 資料4は明治15年に施行された「目下虎列刺（コレラ）病流行ニ付警察事務心得」の一部です。（現代語表記します。）
- 虎列刺病に罹った報知があった時又は風聞がある時は、所轄警察署、分署若しくは出張警部は検疫事務所に報告し、直ちに巡査を出張させ、実地の景況を視察させること
  - 前項の場合においては、署長、分署長若しくは出張警部はその実況の難易により適応の巡査を配置すること
  - 配置の巡査は病家に就き、他人の交接を制し、及び排泄物等の取り締まりに注意し、常にその近傍を巡回し、他人の出入に注意すること
  - 虎列刺病流行地にして警察署、分署又は屯所のある場所にあつては、検疫事務所と協議し、事務所内若しくは便宜の場所に巡査の詰所を設けること
  - 避病院には常に巡査を置き、内外の取り締まりを行うこと
  - 避病院へ患者を送致する時は、巡査が護送すること
  - 死亡者ある時は巡査は手傳人等を指図し、火葬場に護送し、その焼場を監視すること
  - 巡査は時々持場を巡回し、虎列刺病の隠蔽がないよう視察し、不潔物等その他予防に注意すること
- ※避病院：明治時代に設置された伝染病専門の病院で、特にコレラの流行をきっかけに、患者の隔離を目的として設置されました。



資料5：陸羽日日新聞（明治15.7.24朝刊）  
所蔵：宮城県図書館

資料5は、明治15年7月24日付の陸羽日日新聞の記事で、亶理郡荒濱で発生したコレラについて書いています。

この紙面では、荒濱のコレラの「最初発の原因について、はっきりとした原因はわからない」としつつ、出張した巡査からの話をもとに記述しています。

また、「4境に防御線を張り、警吏（警察官の旧称）を派遣して手配中」とも記述しています。

表・裏両面の資料から、警察官が伝染病感染予防業務の最前線で任務に当たっていた様子がわかります。



## イベント情報

令和8年4月までの高倉勝子美術館で開催予定のイベントです。  
R 7.12.20～R 8.1.31：登米市内中学生の「美術授業作品展」  
R 8.4.11～4.19：「水沢 くくり雛展」

## 編集後記

警察が一時期、公衆衛生の業務を担っていたことは知っていましたが、改めて資料収集を行いました。

明治時代以降、「コレラ」や「スペイン風邪」等が大流行し、大勢の方が亡くなれましたが、その最前線で警察官が活動していた状況を知ることができました。

鎌田

## 次号の告知

次号は、伝統芸能伝承館（森舞台）編で、2月に発行予定です。

森舞台は、平成8年に開館しましたので、来年開館30周年を迎えます。



“みやぎの明治村”SNS 随時更新中です！ チェックしてみてください。

